

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 28 年度

事業所番号	2774001206		
法人名	特定非営利活動法人 オリーブの園		
事業所名	グループホームひより南		
所在地	大阪府豊中市曽根南町2丁目7番14号		
自己評価作成日	平成 29年 3月 7日	評価結果市町村受理日	平成 29年 4月 28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.nhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kan=true&jigyosyoCd=2774001206-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪府中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 29年 3月 28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひより南は家庭的なホームであるとともに、入居から看取りまでの安心を医療連携で支えています。安心した暮らしは環境とケアの専門性で支えられています。その質の高いケアの専門性は人材育成の継続で支えられています。また、認知症啓発活動にも力を注いでいます。認知症があっても地域の中で暮らす社会の一員としての視点を大切に、たくさんの地域行事に参加し、また、ホームの行事にも地域の方が来られるなど地域との交流も活発に行っています。日常的な買い物や散歩など「共に生きる」理念を地域の中で実践しています。ご利用者様やご家族様とのうポールの構築にも努めており、職員共に楽しく笑顔の絶えないホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢者福祉、女性支援活動等に尽力し、地域に貢献しているNPO法人オリーブの園が運営する2ユニットのグループホームです。ホームは開設後16年を経過し、認知症相談窓口を開設するなど、気軽に足を運べる施設として地域に定着しています。利用者は家庭的で清潔感のある環境と個性を活かした居間で自分らしい暮らしを楽しんでいます。職員はやさしく親切で、利用者一人ひとりの希望に沿った支援を行っており、入居後に介護度が改善するような成果も見られます。音楽療法を取り入れて、より専門的なかわりを進め、利用者の潜在的な力を引き出す効果を得ています。利用者は日本舞踊の披露、絵画等の出展、運動会で表彰されるなど、楽しく社会参加をしています。法人では職員のクラブ活動や合宿研修等を通じて豊かな人材育成を行い、利用者支援に活かしています。看護師を配置し24時間365日の医療連携支援を行い、看取り支援を充実することで、利用者が安心して暮らせる環境作りをしています。地域や家族と連携し、法人のバックアップを受けて、質の高いサービス提供に取り組んでいるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念については職員憲章9か条があり、それらの具体を4つの心得として毎朝の朝礼で唱和している。また憲章については名札の裏にも携帯し常に見ることが出来るようにしている。 毎年の事業所の目標も施設内に分かりやすく掲げている。	「1. 人間と人間社会を見つめ、その空間と時間の歩みをデザインしていきます。2. 多様な文化や価値を認め合い、個々の生きるステージを大切にしていきます。3. 共生社会の中で自立支援のあり方や、そのプロセスを見つめていきます。」を理念として、ホーム内に掲示し共有しています。理念は職員憲章9か条、4つの心得として具体化し、毎朝の朝礼で唱和しています。職員憲章等は名札の裏に入れて携帯し日々実践しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	公民分館や校区福祉委員会などの主催する体育祭や敬老会、味噌作り、喫茶室などの行事には積極的に出かけており、地域の方からも直接声をかけてくださるなど交流はできている。地域の行事にはホームの看護師も救護員として参加している。ホームの納涼会にはたくさんの地域の方や子ども達も来られた。近隣のスーパーや公園、お寺などにも日常的に出かけている。	ホームの存在は近隣住民に理解され、好意的な関係が保たれています。利用者が散歩や買物等で外出する際に、近隣住民と挨拶を交わし雑談をする等の機会があります。校区福祉委員会や公民分館が主催する体育祭や敬老会など、地域行事には積極的に出かけて交流を深めています。ホーム行事にも地域から多数の参加があり、利用者とふれあう機会になっています。ホーム玄関には「介護及び認知症相談」の看板を掲げて、相談活動も行っており地域貢献につなげています。地域行事の際にはホーム看護師が救護員として参加することもあり喜ばれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	厚生労働省が推進しているキャラバン・メイト事業の「認知症サポーター養成講座」を地域展開させて、多くの方に認知症の知識や学習の機会を提供している。昨年は老人大学や銀行、保険会社等にも出向き、200人以上に出前講座を提供した。事業所前には介護及び認知症相談の看板を掲げ、気軽に相談出来るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内で提供している柔食や流動食の試食会や虐待予防に関する学習・パーソナルソングを活用したレクリエーション・高齢者の暮らし方の社会資源の色々等をテーマに行ったが、グループホームの報告だけでなく、地域からの参加者にとっては良い学習の機会にもなるとして大変好評を頂いている。	運営推進会議は2か月に1回、年6回の開催をしています。メンバー構成は利用者・家族、地域住民代表、事業に知見を有する者、地域包括支援センター職員、市職員、ホーム職員等としています。最近の会議では、ホームの運営概要報告(入居者数、事故なし、インフルエンザ予防接種、定期健康診断、消防用設備点検、消防訓練、地域交流等)、スライドショーによる活動紹介、その他の情報提供を行い、意見交換をしています。参加者からは「ホームは地域との交流が盛んでとてもいい、ホーム対抗運動会が印象的、利用者の笑顔がすてき、ホームが家族的で利用者が気持ち良く過ごせている」等々の発言や音楽葬、音楽療法等への質問、発言が続き、利用者のサービス向上に活かしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	昨年に引き続き、豊中市と介護を活用した就労準備支援事業に協働で取り組んでいる。又、介護予防事業の「街かどデイハウス事業」も法人として受託し、認知症啓発、人材育成、介護予防として連携している。	市の担当者とは常に連携を取り、情報交換をしながら協力関係を深めていきます。また、法人として「介護を活用した就労準備支援事業」に、市と協働で取り組んでいます。さらに、市から介護予防事業の「街かどデイハウス事業」を受託し、人材育成、認知症啓発、介護相談等々、市と連携して取り組んでいます。	管理者は市担当課との協力関係を築いており、今後は音楽療法等を活かした認知症支援活動や市が運営する「豊中駅構内ステーション事業」における認知症予防、啓発、相談活動に、新たなテーマを用意して引き続き取り組む予定にしています。今後、取り組みの成果が期待されます。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については事業所内での解決だけではなく、安全や安心とも両立できる様に、必要時は医療連携・家人の協力・地域資源活用等のネットワークで解決してゆく方針であり、一切の身体拘束は行わない	運営規程に「身体拘束等の禁止」を明記しています。同法人では職員研修を行い、身体拘束排除マニュアルを活用して身体拘束を行わないケアを徹底しています。玄関は外からは入れないように施錠していますが、中からは利用者がワンタッチで開けられるように工夫しています。裏口等には鳴り物を付けて注意喚起し、利用者の自由と安全を守る対応をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に繋がりやすい不適切なケアについては、スタッフ全員を対象に社内研修を行い、人権・倫理・マナー・ホスピタリティの気持ちを大切に出来る様な学習の機会も提供している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族のスタイルの変化や身内がいない等、成年後見制度を必要とする方もおられ、ケース事例を通して学ぶ機会を設けている。介護福祉士は既に学んではいるものの、パンフレット等を渡して学ぶ機会を提供している。最近はりビングウィルのサポートも行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約更新時には家族会での説明や個別の情報交換会を開き、契約に関しての説明責任を果たせるよう努めている。利用者やご家族が持つ不安要因に対して、こちらからの説明だけでなく、不安に対しては十分に聴く姿勢や分かりやすさに重点を置き、納得を頂ける様に信頼関係づくりに努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見や要望に対しては、介護計画書の承認を得る際に、記入欄に意見・要望等自由を書いて頂ける様になっている。年1回は家族交流会を開催すると共に、年1～2回ご家族との電話での意見交換会を行い、運営等に反映させるようにしている。利用者さんの意見や要望はホーム内に自治会があり、それぞれの希望する行事やレク、食事等は出来るだけ反映させている。	利用者自治会で「行きたいところ」「食べたい物」「したい事」等を出してもらい、できることはすぐに日々の支援の中で行っています。さらに介護計画に反映させて利用者の日常支援に活かしています。家族来訪時には職員から声かけをして、意見や要望を聞いています。代表者や管理者は年に数回、家族へ電話をして、意見や要望、家族の状況等を、ゆっくり時間をかけて聞くようにしています。ホームでは「ご家族との情報交換記録」を作成して職員間で共有し支援に活かしています。家族交流会を年に1回開催し、家族の意見や要望を確認してホーム運営に活かしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議では各個人の意見や提案を聴く機会を設けている。職員の福利厚生に関しては、人材育成を中心に充実させている。	管理者は日常的に職員と対話し課題を共有しています。月1回の職員会議やリーダー会議等では、一人ひとりの意見や提案が出やすいように配慮し、研修にも力を入れています。職員は利用者支援の中で発見した課題等を「気づきの記」として記載し、同時に解決方法についても提言するなどの取り組みをしています。管理者は職員が自己点検票を活用して、自らの課題に気付くように導いています。代表者は職員との合宿研修や福利厚生、面談等を通じて、職員の意欲や自主性を伸ばすように努め、人として心豊かに成長することで介護技術も向上すると考え、職員のクラブ活動等を支援しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人材育成については、資格取得が出来るように福利厚生を充実させている。アンケートやレポート、面接等で環境改善提案が出来る機会を設けている。又、労務士等の専門職のアドバイスを受け入れる様にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ストレスマネジメントやセルフケアを行なえる力を養える様に、感受性を高める研修や、自信を持ちながら働ける内・外の研修、又、管理者との交換ノート等で気付く力を養える様に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	拡大運営推進会議等でグループホームの抱える課題を出し合える機会をつくる事が重要と思えるが、この提案に対して行政側の条例等で拒否されている状況である。同業者とは介護保険事業者連絡会等での交流はあるが、運営推進会議の連携を広げて行くことが出来ないのは残念である。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は即 暫定計画を立案し、特にリロケーションダメージに対しては不安が無い様にサポートしながらラポール形成を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	引っ越しサポートや、福祉ケースに繋ぐ様な経済的支援等も行っている。病院から来られる方は送迎なども引き受けている。又、テレビ・タンス・ベット等の生活用品も必要な方には提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	独居であったり家族が遠方で支援が必要な方もあり、フォーマルやインフォーマル資源を活用しながら入居に対しての引っ越しや、入居後の片づけ等の準備をサポートしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔取った杵柄や本人の強みを活用できるストレングスケアを計画しながら共に学びあえる関係作りに取り組んでいる。ラポール形成の構築は“共に在る”ことの喜びであると捉えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の選択を尊重しながら、本人と家族の絆の改善を図る。家人との関係の修復は専門的ケアの目的の一つと考えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホームに入居しても、友人等との関係が切れないようにリスクマネジメントを考え、ルールやマナーを守りながら支援を行う。	入居時には、利用者がこれまで大切にしてきた人、馴染みの場所や思い出の地域等を聞き、記録に残して支援に活かしています。職員は利用者一人ひとりの故郷の桜名所を大きな写真にしてホーム内に展示し、みんなで故郷を思い楽しむ支援をしています。文化祭では、家族が知らなかった利用者の特技や作品を披露して、利用者が文化的な生活を楽しんでいる様子を再確認する機会になっています。大切な人への手紙や礼状、年賀状の代筆や電話の取次ぎ等、職員は馴染みの関係が途切れないよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一般的に決められた対応だけでなく、汎用的にグループマッチングをすすめている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ターミナルケアの中にグリーフケアを含めている。 長期入院の契約切れに対しては再入居出来る様に、又、在宅に戻れる様な取り組み等も行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月、利用者主体の自治会があり、一人一人の思いの表出を促している。認知症があり、思いや意向の把握が難しい状況であっても、利用者間の自治会等で一人々の意向の把握の機会を提供すると共に、その場々の意向を尊重できる専門的接遇に努力し、アセスメントしながらニーズの把握に努めている。	利用者自治会を開催して一人ひとりの思いや希望を出してもらい、ホーム運営に活かしています。思いや意向が言葉で表現できない場合には、認知症ケア会議等で検討し、表情やしぐさ、行動等で察知して、利用者の意向を尊重できるように取り組んでいます。最近では亡くなった利用者の音楽葬に列席し、利用者一人ひとりがお別れの献花をするなどの支援もしています。利用者の絵画やジグソーパズル(アニメ絵)等が、展示会で作品として評価されるなど、利用者の自己表現の場も提供しています。舞踊経験のある利用者には多くの観客を迎える舞台で発表できるように支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	方言、食事の味付け、和や洋の生活習慣等も回想法として活用したり、長期記憶を会話に取り入れるなど、パーソンセンタードケアとして安心して生活できるよう、バックヒストリーを大切に、エンパワメントサポートに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のオーダーメイドの暮らし方に合わせる為には、一人々のフィジカルアセスメントが必要であり、日々のバイタルのモニタリングを始め、ADLの状況等を含め医療連携においてトータルに見てゆくことを実践している。体調不良については「いつもと何か変」という事に気付ける力が必要となる。常に客観的観察が出来、即報告や連絡や相談が出来るように看護師との連携を密にしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者と担当ケアスタッフを中心に看護師、ケアマネージャー、主任介護士、ケアスタッフでケア会議を行いPDCAサイクルに沿って介護計画を作成している。またチームで情報の共有として活用出来るカードデックス方式の採用等、日々変わる状況に対応している。ご家族にも分かりやすい生活プランニングも立てている。	入居面談時にはそれまでの暮らしぶりや趣味、嗜好等できるだけ多くの内容を聞き取り、アセスメントシートに残して支援に活かしています。介護計画書は利用者・家族の希望や意向を反映して作成し、連携する医師、看護師、薬剤師、職員の意見等も反映させて、家族の了承を得ています。長期目標、短期目標についてはケアプラン実施記録を確認して、月に1回モニタリングしています。利用者の転倒リスク等が高まった場合には、家族に詳細を説明して今後の課題を共有しています。介護計画は毎月作成して家族に送付しています。	ホームでは電子カルテを活用することで、利用者の日常支援情報をスピーディに共有し、医療連携会議等での効果的な活用を進めています。最近、システムに不具合が生じ、電子カルテの変更を行ったことで、新システムに慣れるまでに手間がかかる状況になっています。職員間のチームワークを高め、新システムに適応するという課題に取り組むことで、電子カルテの活用を継続していく予定にしています。今後、取り組みの成果が期待されます。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子カルテを活用した記録を行っている。利点としては、バイタル・体重・排泄・食事等の個々のモニタリングも行え、情報の共有や見直しなど実践に活用しやすい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	オリーブの園の特色とする音楽療法を活用した看取りや音楽葬にニーズが高まっている。 実習施設やホスピス、家族の宿泊、地域の相談室など多機能であり、ホームの行事では地域の方に来て頂くなど柔軟なサービス提供を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	校区の敬老の集いでは、小学校の体育館で職員のクラブ活動の発表を行なった。公民分館や校区福祉委員会の行事には積極的に参加したり、地域の遊休資源を活用して文化祭を行なう等、地域資源の活用を図っている。近所のスーパーへ買い物に行ったり公園で遊んだりお寺参りをしたりと地域の中で暮らしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間365日いつでも往診可能な、往診専門の医療機関と提携しており、月2回の定期往診により、居宅療養管理が出来るように支援している。また、かかりつけ医から医療連携医にスムーズに移行できるようにサポートし、泌尿器科や皮膚科等の専門医については入居前のかかりつけ医に引き続き受診出来るようサポートしている。	利用者・家族の希望に沿って、適切な医療が受けられるように支援しています。ホームでは往診専門医療機関と提携して24時間、365日の医療連携支援が受けられるようにしています。利用者は月2回の定期往診を受けています。耳鼻科や皮膚科、その他の専門医療については、これまでのかかりつけ医を継続受診できるように支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携施設として看護師がいる。介護士は健康上の気づきを看護師に報告し、指示を受けたり、必要に応じてスーパーバイズを依頼する。看護師は医師、薬剤師と情報を共有し往診等の調整を行う。又、看護師は職員の健康管理やホーム内の保健、衛生も指導管理している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はグループホームから病院に対して看介護サマリーを提供している。退院に際しては管理者やホームの看護師が病院に出向き、医師や看護師、医療ソーシャルワーカーとのカンファレンスに参加したり直接話をするなど連絡調整、情報交換を行っている。特に生活保護の方も多く、個々に様々なサポートをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師のインフォームドコンセント時や必要時に支援出来る様に、法人としての重度化や終末期に向けた方針を決定し、同意書を交わせるように準備している。又、最近の様々な看取りの選択に対しても、オーダーメイドのサポートに努めている。	入居面談時にホームの終末期支援方針を説明し、重度化した場合には再度希望を確認して同意書を交わせるように準備し、家族、看護師、医師、職員で話し合いをしています。終末期には職員が看取りを行う体制を整え、利用者が安らげるように支援しています。希望があれば家族が宿泊できるように準備して、利用者との別れに悔いが残らないようにしています。ホームでは看取り支援を行うことが通例になっており、エンゼルケアや遺品整理についても職員が担当して、心を込めた対応をしています。お別れにはお花を添えて、利用者、職員みなで見送り、楽しかった思い出や故郷の風景等を写真集にして家族に提供しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほとんどの職員が消防署で救急・救命訓練を受講しており、市民救命サポーター・ステーションに認定されている。特に誤嚥に関しては急を要する為トレーニングを重ねている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災時の対応マニュアルを作成しており、災害・地震を想定しての防災訓練も行っている。数年前には地域のボランティアの方々に防災頭巾を作ってもらった。万が一の水害にも備え、利用者・職員全員分の救命胴衣も設置した。又備蓄の食料や水等も定期的に交換している。今年は更にマニュアルの見直しも行う予定である。	防災時の対応マニュアルは豊中市の方針に沿って、水害や土砂災害に備えた内容を新たに強化しています。ホームでは消防署や地域自治会等と連携して、年に3回の防災避難訓練を実施しています。利用者は地域のボランティアに作ってもらった防災頭巾をかぶって避難訓練をしています。また、水害に備えて利用者とスタッフ全員分の救命胴衣も確保しています。最近では水害を想定した避難経路を確認し、避難場所の中学校までどのようにして利用者をサポートし退避するか、いろいろな方法を検討しています。地域自治会の防災訓練にも参加して、地域との協力体制を築いています。非常時に備えて水や食料品、カセットコンロ等をホーム内に備蓄しています。また、避難時に持ち出す利用者に関する記録等の準備も常時確認しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	現場においては慣れが生じやすく「常に自分に置き換えて考える力を養う」ことや「自分の感受性に敏感である事」を介護の専門性として自ら磨きを続け、自分の介護観の柱として人権や倫理が立てられるような研修や人材育成に取り組んでいる。又、スタッフだけでなく、面会時のご家族様のルールやマナーについても人権の侵害が無い様な啓発をしている。	職員は利用者一人ひとりの意思を尊重し、利用者の思いに沿った支援を心がけています。法人では人権や倫理についての研修を行い、言葉かけや対応について利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮した支援を徹底しています。さらに、面会時の家族にもルールやマナーについての理解を得るよう取り組み、利用者の人権やプライバシーに配慮した対応をしています。個人情報保護についての法令遵守、秘密保持については職員の入職時に雇用契約を交わしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	家庭的で遠慮なく自己決定や自己選択が出来る雰囲気がある。ホームでは毎月の自治会を開いており、その中で活発な意見が出されている。職員はそれらの要望により計画を立て実践している。食事や外出等の日常の中の自己表出も大切にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭的な環境の中にあるグループホームの特性を活かし、人や物・空間等の環境を大切にしている。その人の今迄の暮らしにも配慮し、仲良しグループでの趣味活動等、共同生活であるメリットも活用しながら、柔軟に一人ひとりのペースを支えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみはその方の自尊心を守る大切なものである。清潔で快適である上に、その人らしさを支えるお洒落などTPOに合わせて支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常は家庭的な食事を主としているが、正月や敬老の日など非日常である季節の行事食やお楽しみ食等も取り入れている。お花見では一緒にお弁当を作ったり、たこ焼きやお好み焼、おやつ作りなども楽しみのひとつである。食事は、生活リハビリ、また、食文化としても位置付けられており、利用者さんの力も活用している。	ホームでは食と五感を大切に、四季折々の行事食、バランスの取れた豊富なメニュー、色彩豊かな盛り付け、食器類やテーブルセッティングにも心をこめて「食を楽しむ」支援をしています。調理専門職員を配置し、筍や木の芽など旬の食材を選んで利用者の希望に沿った食事作りをしています。利用者は自分の得意なことで力を発揮しています。魚の骨や皮はそのままに、あさりや貝殻を添えて、自然のままを楽しめるようにしています。キザミ食は姿のまま器に盛り付け、利用者が見た目を楽しんだ後、必要な大きさにカットしています。年間に使用するみそ造り、餅つき、お弁当やおやつ作り等にも利用者を中心に取り組んでいます。利用者自治会の希望に沿って外食にも出かけています。職員の提案から、調理専門職員不在の場合や災害時に備えて、スチーム食の備蓄も行い万全を期しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をして いる	栄養や水分補給の目安は計画の中に 入っており、不足する場合は食事形態 や嗜好に配慮している。夏季や冬季は ホーム全体の脱水対策を心掛けている。 また、BMIの変動もモニタリング し、栄養バランスにも心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはその人に合わせ て声かけや見守りで自立を促したりブ ラッシングを介助したりと日々の口腔 ケアに努めている。認知症でうがい のできない方にはマウスウォッシュやス ポンジブラシで口腔ケアを行っている。 必要に応じて訪問歯科医とも連携し、 専門的口腔ケアや口腔ケア指導を受 けることも支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を 活かして、トイレでの排泄や排泄の自立 にむけた支援を行っている	排泄サインやパターンリズムをつか み、失敗に繋がらないように声かけや 誘導等の個別支援をしている。各居室 にトイレがあることも自立につながって いる。	排泄チェック表を作成し、利用者の排 泄リズムを把握して、さり気なくトイレ 誘導を行いトイレでの排泄を支援して います。水分チェック表を作成し、ヨー グルトの摂取等、食事にも配慮して気 持ちよく排泄ができるように支援して います。入居時にはリハビリパンツを 使用していた利用者が、職員の声かけや 丁寧な対応により、現在では布パンツ 使用になった成功事例があります。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策は個人の適切な排便コントロールを計画している。水分補給には特に気配りすると共に腹部マッサージ等も計画されている。水分や運動だけでなく、ヨーグルトの摂取等、食事の工夫や状況に応じた投薬のコントロールも行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は清潔を保つだけでなく、心のホリデーやコミュニティ形成の場でもある。リラックス出来る入浴剤の工夫や菖蒲湯・ゆず湯等文化や季節を楽しんで頂いている。仲良く入浴できるようグループミックス効果を計画している。ゆっくりと個浴を楽しむ方もいる。	ホームには個浴と少し広めの浴室があります。旧女子寮を活用していることもあり、居室にも浴室を設置した部屋があります。各々利用者の希望により、一人でゆっくり入浴したいときは個浴、友達同士で楽しく入浴したい時は広めの浴室を利用しています。体調が悪い日には居室のシャワーを利用することもあります。入浴は2～3日に1回ですが希望すればいつでも可能です。入浴を好まない利用者は家族の訪問に合わせて入浴を勧めています。寒い日にはゆず湯などが喜ばれています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	ホーム内はゆったりしたヒーリン グ音楽も提供している。居室は温 度や湿度が管理されて快適に過 ごせるように配慮している。また 、家庭的な雰囲気ですぐに緊張 感もなく、ベッドではいつでも 休息できる環境が整えられてい る。昼食後談話室ではコーヒーセ ラピー等も行われ、リラックスタ イムを提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	処方薬の薬ボックスへの薬のセ ットは薬剤師に依頼している。毎 時の薬のセットや配薬は基本ホ ーム看護師が行っている。介護 士も薬の知識や副作用、留意点 に至るまで学習を提供し、その 冊子はいつでも見ることが出来 るよう定位置に備えている。投 薬情報としてお薬手帳も管理し ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	ホーム内の自治会やクラブ活動 等もあり、自己実現としての発 表会の場や機会も生きがい支 援として行っている。ホーム内 の個々の役割は生活リハビリと して日常の中に位置づけられて いる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日用品やおやつを買いに近隣のスーパーへ行ったり、公園などに散歩に出かけたり、地域の喫茶でお茶を楽しまれたりと日常的な外出を楽しんでいる。外出行事は“自治会”により、利用者さんの希望や要望を聞き、お花見・バラ・菖蒲・紅葉などの季節の行事を楽しんで頂いている。	暖かくて天気が良い日には近くの公園に出かけたり、ホーム周辺をゆっくりと散歩したり、買い物にも出かけています。ホームの外出行事は、利用者自治会でいきたい場所の希望を聞き、可能な限り利用者の希望に沿うようにしています。季節を楽しむお花見や紅葉見物等はお弁当持参で出かけます。合同音楽療法には近くのハーモニー(街かどデイハウス)まで出かけます。地域の行事にも積極的に参加して楽しんでいます。家族と外出や外食に出かける利用者もあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品やおやつなどの買い物ではスーパーのレジで支払いが出来るように支援している。外出行事時で土産コーナーを覗くことも楽しみであり、希望する方にはお小遣い程度であるが支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	手紙や年賀状、季節の絵手紙などを支援している。又、ご家族や知人からの電話の取次ぎも行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感があり、家庭的で明るい雰囲気大切にしている。ホーム内は有線やCDの心地良い音楽や懐かしい音楽が流れている。音楽や香り、花や緑、金魚などもリラックス感がある。季節に合わせてレイアウトも変更し、有機的な空間のホスピタリティーを大切にしている。各居室でも気の合った友人同士でお茶が飲める様に、等のサポートをしている。	ホーム玄関前には緑と花の植栽が美しく、玄関を入るとホッと落ち着いて我が家に帰った雰囲気が味わえます。廊下には大きなソファや小さなイスが利用者の用途に沿って用意されています。可愛いクッションや大きなぬいぐるみを置いて、利用者が和めるように、会話が弾むように工夫しています。壁面には利用者の懐かしい故郷、桜名所の写真を飾って楽しめるようにしています。利用者が集う部屋は明るく工夫し、音楽や香りを用いてリラックスできるようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室で座談をしたりのリんびりと過ごしたり、また、廊下にもソファを置き、ゆっくりとくつろげるよう、居場所作りを工夫している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の住みなれた部屋を再現できるよう、使い慣れた家具等を持ち込んで頂くなどの工夫をしている。鏡台や暖簾など回想にも工夫している。趣味のものを飾られている方もいる。また、特に臭気などの環境にも配慮している。	各居室入口のドアには木靴の花飾りと表札をかけています。木靴は「利用者さんがいつまでも元気で歩けるように」と願って、職人に依頼して作った手造りの逸品です。居室には応接セットやソファ、使い慣れたタンスやドレッサー等が設えられ、利用者は各々好みの暖簾をかけて、ゆったりと落ち着いて過ごしています。居室の窓は大きく明るく、利用者は家族写真や自分の描いた絵を飾り、折り紙や編み物を楽しみながら自由に過ごしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口にはインテリアを飾ったり表札を工夫したり、必要な方の居室には手すりを設置するなど、見当識障害やADLに配慮している。それぞれの自立を促すため、表示やデザイン等わかりやすさを工夫し、さりげない家庭的な環境作りに努めている。		